

都立第五高等学校

昭和二十一年四月に入学した本校に

在り、入学以来の学校生活は

小学校の担任の指定で受験した

小学校のひとくろす一名が指定された

その学校を不志とて、その上終り

何校も受験出来た

如くに入社したものの学校三日にして

終り、やがてしすた

当時線路をいり、強制的に移すければ

制

なる、その事とに家の不都合あり

その木林を校長に何と不仕事

もうひとつは引越予定地、た中野の富で見所

の、~~燃~~の仕事は

畑はさつすいも、かぼちや、味噌

肥料が必要に、近所へ下肥をとりに行くと

種を二人でかつた

い、早が育ちると、今やじっと来る

何の二とは、入居のむかし、学校へ入

り、畑の仕事をして、い、たのた

それでも将来を夢見て一生懸命だった
やがて戦争も終り

中野の市定地に木造の学校がたつこと
はたつた

勤務はもう小時分

校庭の敷石を新市の~~校~~校庭から中野の市定地

まで二枚あるからかえ
あいつはこんだ

その号機を卒業した時は名証も変り

都立フジ宮校卒と存じ

卒業生の名称は若竹会

そこからこの況のお知ろが来た

大正九年から百年たつた

百年祭はつたやど中止とかいてあり

大正九年^建つたのが細の七学校

卒業して七十年くらいたつ

今も後者存号機とのこと

昔々の話を

尾のこりさくら

人こそ知ろお嘆息はあり

2021
8/5

思ふまじい

子供のころ